



日本遺産「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～<sup>みけつくに</sup>御食国若狭と<sup>さば</sup>鯖街道」  
日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地小浜」

小浜西組  
町並み協議会

# 町並み通信



発行責任者：中島 福則 2020 新春号 (vol.154)

## 令和2年の新しい年を迎えて

小浜西組町並み協議会 会長 中島 福則



小浜西組住民の皆様、また、関係各位におかれましては、御健勝のこととお慶び申し上げます。

飛鳥、香取地区の茶屋町通りの整備工事も終わりに差し掛かり、今年の3月には石畳風舗装をして完成を迎えることとなります。

選定を受けて12年目になりますが途切れることなく、毎年4から5件のペースで建物等の工事が続いてきております。建物所有者の意欲、行政の方々の熱意に感謝せずにはおられません。

地区内での国、県、市の補助金を活用しての建物修理、修景希望者が増えてまいりまして、今現在18件の申請があり、工事着工を待っている現状です。

西組協議会としては、今年度も微力ながら、庚申堂の祭りとコラボしての「町家deフェスタ」や、他のイベントのお手伝い、街づくり協議会の活動に参加、協力する中、地域の活性化や、環境整備に努力し住民の皆様と共に、新マスタープランを具現化する活動に取り組んで、「住んでよし、訪れてよし」の町をめざして頑張っていきたいと考えております。

北陸新幹線、敦賀・金沢間が後3年と少しで開通します。

今、小浜全体が大きな期待と喜びに包まれている中、小浜市全体としての受け皿づくりが必要に迫られております。ますます多くの方々が見物地区を訪れる事でしょうが、町歩き観光の人たちの受け入れ態勢をどうすべきか、今後の大きな課題であるといえましょう。

行政と住民、企業が協力して、地域の魅力アップと資源の活用を考え、地道に身近な出来ることから取り組み、西組地区を盛り上げていかなければなりません。

今後も皆様のご支援ご鞭撻を切にお願い申し上げます。



## 文化庁文化財第二課 大石文化財調査官を囲む会に出席して

活性化委員会 馬場淳子



10月7日、熊川宿まちづくり特別委員会主催の文化財調査官との交流会に初めて参加いたしました。

この交流会は、毎年、文化財調査官の視察に合わせ、熊川宿まちづくり協議会と小浜西組町並み協議会が交互に主催するもので、『二つの重要伝統的建造物群保存地区が協働し毎年このような交流会を行うことは全国的にとっても珍しいことで大変素晴らしい』と、大石文化財調査官からお褒めの言葉をいただきました。



大石文化財調査官

まず、熊川宿まちづくり特別委員会会長宮本様から、開会のご挨拶の後に、今の問題点として、熊川宿を守ってきた住民も、二世帯・三世帯となると空き家になってしまうことをお話しされました。空き家問題は全国的な問題で、これからはしっかり考えて対応すべき事項です。

引き続き、小浜西組町並み協議会中島会長より、三丁町整備事業がまもなく終了の報告と、今後の展開として三丁町の観光化や住民参加のイベントを実施というお話がありました。

その後、本会のメインであります、大石文化財調査官から大変勉強となるお話を伺いました。主な内容を以下に箇条書きいたします。

- 文化財保護法の改正により、今後は活用に支援をする方向。保存と活用は両輪であって、どちらも欠けてはならないもの
  - これからの重伝建制度はPDCA\*に対応した活動が求められる
  - 熊川宿、西組ともマスタープランを改正していてとても良いことだ
  - 西組10周年で改正されたマスタープランは、直感的でとてもわかりやすい表現に好感がもてる
  - 熊川宿が5年ごとに発行する修復修景冊子にある住民の感想が、良いところだけでなく不満や改善点も記載され、それが次の修復に活かされている、今後も続けてほしい
  - これからの重伝建は「所有者」「設計士」「職人（大工・建設業者）」「行政」の連携がうまく働くようにしなければならない
  - 文化財を活かした観光・まちづくり・街の賑わいの復興がキーワード
  - 今の観光は全国的にインバウンドを進めているが、個人的に危惧を感じている、ではそれに代わって何をすればよいのかという答えを持ってはいない
  - 重伝建で暮らす住民が幸せなことを提案できるのは、熊川宿・小浜西組であると期待する
- このお話は、これからの私たちの活動に大きな刺激となりました。

熊川宿まちづくり特別委員会の皆様による 鯖サンドや熊川名物シイタケ・こんにゃくなど数々のおもてなしで、楽しい交流会は予定時間をやや超過して閉会となりました。

文化財調査官のほか、熊川宿を支えている多くの人々との交流は、私にとってとても刺激的で、このヒントをこれから小浜西組町並み協議会の活動に活かそうと思いました。

\*「PDCA」とは、「Plan=計画」「Do=実行」「Check=評価」「Action=改善」の4つの英単語の頭文字で、「PDCAサイクル」とも呼ばれます。P→D→C→A→P……といった具合に、4つの段階を循環的に繰り返し行うことで、仕事を改善・効率化することができる方法とされています。

# 小浜西組重伝建地区説明会開催

日時：令和元年11月15日（金）19：00～20：30

場所：若狭ふれあいセンター

主催：小浜市教育委員会文化課

小浜西組は平成20年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されて約10年が経過しました。

この説明会は世代交代、新規入居、そして地区住民の方々に改めて重伝建制度について理解していただくために行なわれました。

## 文化課の高山主事から

1. 重伝建地区とは高度成長に伴って歴史的な町並みが消失していく危機感から、町並み保存の市民運動が発生し、住民と地元自治体の取り組みを国が後押しするため、昭和50年に重要伝統的建造物群保存地区保存制度が創設されたこと、そして重伝建地区のメリット・デメリットについて
2. 小浜西組地区の概要について（町並みの特徴、町並みの歴史、小浜西組の選定理由、保存地区の範囲）
3. 現状変更許可申請について
4. 補助金について（文化課所管）国の補助制度、小浜市独自の補助制度について

## つづいて他課所管の補助金制度について

★都市整備課では木造住宅の耐震診断および耐震改修工事を支援していること、対象は昭和56年以前に建てられた地上3階以下の木造住宅であることなど。

詳細は都市整備課 営繕G（0770-64-6071）へ

★商工観光課 野村主事からは、市街地で空き店舗等を活用して飲食店・土産物店を開始する人、市内で新たに創業する人を支援しますと説明がありました。

詳細は商工観光課 商工振興G（0770-53-9705）へ

この説明会の資料は小浜町並み保存資料館にあります。

以上の市役所からの説明会終了後



文化課の説明



商工観光課の説明

# 小浜西組町並み協議会 第4回役員会

日時：令和元年11月15日（金）20：30～21：15

場所：若狭ふれあいセンター

出席者：中島・佐野・大田・桂田・村松徹・近藤・澤口・石野（市役所）高山・赤崎（敬称略）

## 市・文化課から

- \*小浜西組用の散策マップについて、協議会と合同で新しいマップを作成したいとの提案がありました。
- \*小浜西組の保存活用計画の策定を計画しており、その際には協力をお願いしたいとの依頼がありました。
- \*令和2年度の重伝建補助事業の応募が18件あり8件に絞って申請をすすめていると報告がありました。

## 今庄宿まちづくり推進協議会来浜

令和元年12月7日（土）今庄宿まちづくり推進協議会の9名が小浜西組へ来られ、小浜町並み保存資料館にて話し合いが行なわれました。（14：15～16：00）

今庄宿（協）は平成30年5月に設立し、重伝建保存地区の選定に向け活動しています。小浜西組（協）の設立、運営、まちづくりの取り組み、活動等を訊いて、今後の参考にしたいということで小浜西組へ来られました。小浜西組町並み協議会からは澤口相談役、中島会長、石野副会長が対応しました。

高山主事が小浜西組の概要を説明したあと、今庄宿（協）からの質問事項に答える形となり、会は始まりました。質問事項が事前に届いていたこともあって、1時間半の話し合いは充実したものとなりました。

夕方、外が暗くなってきた頃あわてて終了し、高山主事の案内で小浜西組を視察見学され帰路に着かれました。

### 《今庄宿》

戦国時代、京都より北陸に向かうには西近江路か、北国街道を通るのであるが、これらの道は今庄で合流するため、今庄は北陸への玄関口にある宿場として多いに発展した。



今庄宿まちづくりの皆さん

## 小浜西組町並み協議会からの報告とお知らせ

### 町並み保存資料館の開館時間

10：00～16：00まで 3月31日まで（火曜日休館日）

小浜西組の URL <http://obama-nishigumi.sakura.ne.jp/>

小浜西組

検索